

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年5月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0793230012		
法人名	有限会社 T & T		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 高原の家かわうち		
所在地	福島県双葉郡川内村下川内字田ノ入18-3 (電話) 0240-39-0561		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年4月17日	評価確定日	平成19年5月30日

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算4.94人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成19年4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2		2名	
要介護3	4名	要介護4		1名	
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 85歳	最低	77歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川内村国保診療所(内科・歯科)・(医)今村病院・(医)双葉病院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町内唯一の介護保険入居施設である。ホーム長、管理者はじめ職員は役職にこだわらず同じ立場で仕事ができるような関係であり、アットホームな雰囲気である。チームワークの良さがホームの自慢できるところであるとのこと。開設して1年という状況だがスタッフの雰囲気で入所者の安定にもつながっている。スタッフの基本職種も栄養士、看護師などがいるほか、地区の行政区長が法人の代表の親戚という関係から地域の住民や行事などのつながりを図ってくれたり、消防署の職員が地元の方であるので入居者の急変時には積極的に駆けつけてくれる等の様々な支援を受けれる状況にある。2年目はアットホームな雰囲気から一歩進んで、内部の体制をより専門性のあるものへ向上させていく時期ではないかと感じた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者がスタッフに聞いて意見をまとめて作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 運営推進会議は昨年に初回を開催したばかりである。内容は主にグループホームからの状況報告による、ホームの理解を得るための目的が中心である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 運営推進会議に家族の参加を依頼し、1名の参加が見られた。家族の意見は面会時にホーム長、管理者らが主に何うようにしている。また、スタッフはなるべく入居後のよい評価を伝えることで家族に安心してもらえるように意識して働きかけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) スタッフの子供の運動会や学習発表会に利用者も家族の一員として一緒に参加した。その際に校長先生から御礼のあいさつを受けたとのこと。法人代表の親戚である行政区長を通じて、地域の行事をいろいろ紹介してもらい参加している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者本位」「地域密着」「異體同心」という独自の理念を掲げている。また週1回はミーティングの際にスタッフでの読みあわせをして意識化している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は3つの理念を理解し、特に利用者本位を実際のケアの場面で意識しながらかかわっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設前に地域に開放し見学会を行った。スタッフの子供の運動会や学習発表会に家族とともに入居者も「家族の一員」として参加した。そのほか、村主催の敬老会に参加したり、村のお祭りに参加した。またホーム主催の夏祭りを開催し地域の方に遊びに来てもらった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者がスタッフに確認しながら自己評価項目をまとめて作成した。	○	ミーティングや会議等の機会を設け、スタッフ全員で自己評価の項目一つ一つの内容や意味を確認しながら、現体制との比較をすることで内容の向上に利用していただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>第1回の運営推進会議を開催した。家族や地区の行政区長、地域包括支援センターのスタッフなどが参加した。内容はホームからの状況説明と委員からの意見をいただく機会とした。ホームからの報告中心となった。</p>	○	<p>運営推進委員会の意義や目的について、ホームや委員で確認し、どのような委員会にしていくかから話し合うことで、次回以降開催により双方にとってよい効果が得られるようにしていただきたい。</p>
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康面での変化が見られた際にはそのつど家族へ連絡している。また外出した際には必ず写真を撮り利用者個別にアルバムを作成しておりそれを利用しご本人の様子を伝えるようにしている。また家族面会時には入居者の良くなっている面を意識して伝えている。</p>	○	<p>家族とのやり取りの事実を記録等に残すことで重要な点の統一した関わりにも活かせるので、記録方法の検討をしていただきたい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談窓口を設定している。入居者の家族は遠方の方が多いので主に電話で意向を伺うことが多い。</p>	○	<p>家族参加の行事等を開催しその際に家族から気づいた点を伺う時間を改めて設ける、家族のみで話し合う機会を設けるなど、場面設定をすることで少しずつでも意見を出しやすい状況を作ってほしい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>併設施設もないので異動はない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設前にはスタッフが他のグループホームに行き、夜勤も経験する等充実した研修を行った。開設後はグループホーム連絡協議会の研修などにスタッフも参加している。	○	外部研修も頻回に開催されるわけではないので、内部の研修機会を設けていただきたい。材料としては開設当初に作成した各種マニュアルを一つ一つ見直しながらホームにあった内容に見直していくことや自己評価の内容に関して確認する機会を設けるなどの検討をいただきたい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設前に研修した他県のグループホームにて、夏祭り開催前に再度研修させてもらい夏祭りの実施に関して教えてもらう機会を作った。	○	さらに近隣のグループホームとの交流機会を設ける等の働きかけを行っていただきたい。
1. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	言葉の由来、ことわざ、戦時中の出来事など午後のおやつの時間を利用して教えてもらう。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自発的に発言する方が少ないので、入居後にスタッフは普通の会話から意向を把握するようにしている。	○	暮らし方の希望に関しては、入居以前からの生活を入居後も継続できることがまず基本になると考えるため、その実施に必要な生活暦の把握とその記録は一人一人行っていただきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当スタッフ、看護師、介護支援専門員にて話し合い介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに一人一人サービス担当者会議を開催し見直しを行っている。	○	介護計画は個別ファイルの中に保管されている。スタッフが介護計画のサービス内容を意識してケアをできるように、個別ファイルの一番前など目に付きやすいところに置くなどの工夫を検討いただきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後は基本的に村内の診療所に通院するが、希望に応じて入居前の医療機関受診を行っている。協力病院については予約診療等で待ち時間を省略したり、看護師長と相談できる関係を作っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	以前話し合いで話題とされたが、ホームとしての結論には至ってない。	○	他のグループホームの意見や方針も参考にしながら職員と方針の検討をしていただきたい。また検討にあたっては運営推進会議との協議も踏まえて進めていただきたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	朝の挨拶に関しても礼儀に注意したり、親しさを意識したりと一人一人に違う挨拶を行っている。また、村内から入居された方が多いので近所の方が様子を聞いてくるが、プライバシーに気をつけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の中には、朝ゆっくり起きる方がいたり、朝食にパンを食べる方がいたり全体にあわせた生活にならないよう配慮している。入浴日もその方の意向に応じて対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは一部の方ができるがやらない方から不満も出るので行っていない。しかしホットプレートなどを利用した料理を行ったりしている。職員もなるべく一名と一緒に食事を取るようになっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日はおおよそ決めているが、当日の気分や受診で入れないときには翌日入浴を勧めたり、臨機応変にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	農業を営んでいた方も多いのでホーム内に畑を作り、草取りを一緒にしたり栽培の助言をもらったりしている。	○	幅広く個別的な張り合いや喜びを持てるように、入居前の生活や特技、嗜好などを再度把握する機会を持ち、日常会話から得た情報を随時追加記録できるような様式を作成し実施内容を残せるようにしていただきたい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	食材や日用品の買い物やドライブに併せて食事をしてくるなど、日々の生活の中で思い立って行動する外出のほか、村内の行事や地区の催しに積極的に参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には出入りを知らせるような鈴がついている以外鍵による施錠や行動範囲を制限する方策は見られない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもとAED(自動体外式除細動器)の講習や避難訓練をしている。また、警備会社のスタッフが車で2分のところにおいて夜間でも緊急時にはすぐ駆けつけてくれる。また村内の方なのでいろいろ相談にのってくれる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホーム長は栄養士であるため作成された献立のチェックを行っている。水分量も多めにとるように食事やおやつの時間に水分をまめに取るようにしている。	○	入居者の状況に応じた水分量の把握を行い、受診時などの参考になるように個別の水分摂取が把握できるよう工夫いただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目を多く取り入れた内装で落ち着きや暖かさが感じられる。壁にはスタッフが撮影した季節を感じる写真が飾ってある。共用空間には畳の小上がりがありコタツがある。昼食後はコタツに入って横になったりTVをみたりめいめいにすごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けのベッドや自宅から持ってきた個人の家具やお気に入りのカラオケセットがおいてある。しかし、比較的さっぱりとした印象がある。	○	入所前の自宅訪問の機会や、入居後の家庭訪問などの機会を作るなどしてホームに持参する使い慣れたものを一緒に選ぶなどして安心した環境が作れるように配慮している。

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(別紙1)を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 認知症高齢者グループホーム 高原の家 かわうち
記入担当者名 河原 とも子

評価結果に対する事業所の意見
特に無し

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。